

岸上 知志 (Kishigami Satoshi)

2021～2023 年度奨学生

オックスフォード大学 化学学部 博士課程

坂口国際育英奨学財団の日本人奨学生として英国のオックスフォード大学化学科大学院に留学をさせていただいている岸上知志と申します。先月行われたエリザベス女王の葬儀の期間は半旗が掲げられていた街の建物ばかりでしたが、現在では表面上は日常の穏やかな日々が戻ってきた感があります。しかし、英国で暮らしていると、メインの目的である研究関連のタスク以外の生活面の部分で否応なしに大きな社会問題や世界情勢の流れに影響を受けるのを肌で感じます。ここから冬に向けて気温も下がり、エネルギー事情も厳しい中で寒さと戦いながら研究活動を行うことが予想されますが、体に極端な負荷がかかるような無理をしすぎないようにし、適度な運動を含めた健康管理をしつつ乗り切りたいと思っております。

それにしても、英国内のエネルギー価格の高騰は極めて深刻で、昨年と比較して 2 倍の水準で推移している光熱費の負担は、円安傾向が強まっている現在の為替の状況もあり、非常に厳しいというのが正直な感想です。とはいえ、一学生の悩みなど所詮は小さな話かもしれません。エネルギー価格の高騰は、ほぼ間違いなく現在ヨーロッパで半年以上に渡って継続している凄惨な戦争の影響です。今現在も罪のない民間人の方々をも巻き込んだ悲惨な戦闘が続いていることを思うと暗澹たる思いになり、1日も早く平和が戻ってくることをただ願うばかりです。こちらの二枚の写真は、大学の同じ場所を違う時期(春と秋)に撮影したもので、言葉で詳しく説明をせずとも、

英国の政治的立場をはっきりと感じ取ることができると思います。様々なスキャンダルや問題を抱えていたジョンソン政権からトラス政権へ、そして驚くべきことにトラス首相が今月 20 日に辞任を表明されるなど、混迷する英国政界ですが、自由と民主主義の守護者としての力強い自負についてだけは一貫しているのは確かだと思います。



▲イギリスらしい曇天にはためく英国旗(上、今月撮影)とウクライナ国旗(下、春に撮影)

さてここからが本題ですが、私の研究の進捗については、実は思わぬところで非常に大きな躓きが有り、かなり手痛いダメージを受けています。少し具体的にトラブルの詳細を共有させていただきますと、自ら合成したかなり高価な試薬を用いて作成したタンパク質のサンプルが、長時間の測定待ちの時間に構造が壊れてしまったようで、再度の作り直しが必要になりそうです。自分から提案した研究ターゲットであっただけに、精神的にも追い詰められ、一時は吐き気を催してしまうほどのプレッシャーを感じました。今は少し回復しつつありますが、やはり心理的に追い詰められている感覚と危機意識はあります。

大きな意味での研究のアイデアや我々が追及している仮説そのものが否定された訳では決してなく、これまでに得られたデータも興味深いものではありましたが、それでも進捗に支障が生じてしまっていることについては正直に報告をさせていただきたいと存じます。自分にとっては残念な結果となりましたし、厳しい現実から目を背けたいと思ってしまうこともありましたが、気を取りなおしてもう一度また実験に取り組んでゆきたいと考えております。既に指導教官とは彼のご自宅で直接お話をする機会をいただきましたし、学科側の大学院プログラム全体を統括しているディレクターの教授の先生にも連絡を取った上で、計画を練り直し、気持ちを新たに地道に進捗を積み上げてゆきたいと存じます。指導教官も、ディレクターの先生も今回の失敗については残念だったが、研究での躓きはよくあることで、失敗に落ち込みすぎないでまた頑張るようにメッセージをいただきましたので、迷いなく進んで行けると思います。

純粋な研究以外の場面では、周囲の友人に精神面や生活面、大学院の事務手続きなどの情報共有で助けてもらうことが多く、個人の能力を高めることも大事ですが、相互の信頼に基づく良好な人間関係を大切にすることも非常に重要であるということを感じています。特に、貴奨学金の仲間からは本当に多くの励ましや悩みの共有の機会をいただいております。各種交流会をご企画してくださっている事務局の皆様にも、この場を借りて心より深く感謝を申し上げます。他にも大学の囲碁クラブで一緒に学生には夏休みで正式には定期的な会合がない期間も一局打ってもらうなど、リフレッシュする機会をもらっております。これから実験や論文執筆で忙しくなっていく中でも、研究に支障をきたさない範囲で、時間の許す限り、心を落ち着かせるために会合には出たいと考えております。ただ、もちろん研究が優先です。



▲黒番が筆者で白番は同じ研究棟の学生で上級者、三子局のハンデ戦の途中経過

こちらの写真は最近、自分よりも棋力の上の学生に打ってもらった一局の途中経過です。ラボでも月に一回だけ、時間のある時に息抜きができるよう、マグネットの碁盤を持ってき

てしまいましたが、お許しただけると幸いです。彼とは実力に大きな開きがあるのでいつもハンデをもらっています。対局中にも「この手は別の場所に打った方が良い」など、様々なアドバイスをもらいながら研究とそれ以外の様々な話題の雑談に興じることができるので、気分がリラックスします。もちろん私の本分は研究活動なので、囲碁の力で劣っても、研究の成果では負けないように、努力を継続したいと思っています。

以上